

第33回香川経営研究集会【分科会】



設営：人を生かす経営推進本部（経営労働・社員教育・共同求人・多様性委員会）

共育型インターンシップで 会社も社員も地域も良くなる!!

～小さな一流企業づくりの第一歩～

第1分科会

報告者：NPO法人丸亀街づくり研究所／理事長 **合本啓雄氏** 香川県立三木高等学校／教諭 **池田 咲氏**
 (株)ケアサポート幸樹／代表取締役 **松本 武明氏** 香川県立三木高等学校／教諭 **松本頼政氏**

関わる人全てが成長できる

この度、第1分科会の座長をさせてもらいました。日新モーターズ(有)の竹内淳一です。第1分科会は経営者・社員・教員・生徒がインターンシップに参加することで何を学び、自分自身がどう変化したのかをそれぞれの立場から報告してもらいました。当日は生徒が報告前に緊張から涙する場面もありましたが、本番は全員最高の報告をしていただきました。本当に感動しました。

今年度から4委員会の人を生かす推進本部に参加することで、インターンシップに関わることになり、正直面倒くさいことが一つ増えたぐらいに思っていました。しかも弊社は多度津町に所在しているため、今回の三木高校インターンシップには残念ながら参加できておりません。そんな中、去年10月に三

木高校と同友会の連携協定調印式と生徒の成果発表会に参加して、生徒の成果発表を6社ほど聞かせてもらつた中で、どうしてもインターンシップに参加したいと思うようになりました。それは、生徒の劇的な変化を目の当たりにしたからです。

インターンシップは、生徒だけではなく教員も、経営者も社員も関わる人全てが、人間的に成長できる、素晴らしい取り組みだったのですが、その中でも、生徒の変化が目覚ましく感動しました。

未来を支える若者に、地元の中小企業の良さや自社の取り組みを、我々中小企業の一経営者や一社員



が生徒の将来に影響を与えることができるかもしれない。これは素晴らしいことだと思います。地域の中小企業の良さや取り組みは、学校では絶対教えられないことでもあります。そして、経営指針書を文化してることが条件ですが、参加できるのは同友会会員だけです。第1分科会に参加して下さい。三木高校以外の県立高校の先生方も「ぜひ、当学校も開催したい」という話が出ています。今後は中讃や西讃エリアでも、この取り組みが広がっていくことを思います。

ぜひ皆さんも参加して、我々の住む地域には素晴らしい中小企業があることを伝えて下さい。この活動の先に地域に若者が残ってくれて就職してくれることや人間性豊かな社会人が増えることで、明るい未来・元気な地域づくりができると思います。そして、経営理念・経営

指針書をもとに、実践している企業が増えることで、学校側の募集する企業数より、多くの企業が参加したいというような同友会になってくれば、我々の地域・香川は今よりも良くなっていくと思います。

そのためには、参加企業が増えることが、今は一番重要なことです。まずは、来年度に参加してくれる企業が今年度より増えることを願っています。一緒にインターンシップに参加してこの素晴らしい取り組みを体験し、自社の成長とともに地元就職したいという若者を残すような地域づくりをしていきます。

座長

日新モーターズ(有)

代表取締役

竹内淳一／記

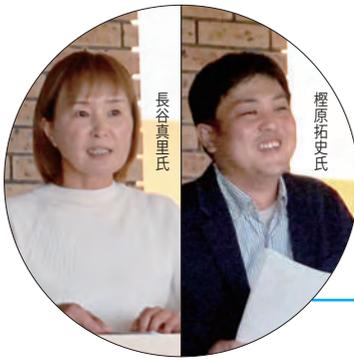
(中讃第2支部)



設営：企業連携推進本部（異業種交流・国際交流・環境経営委員会）＋女性委員会

持続可能な“さぬきの未来”を共に考える

～地域の課題と共育ち、私が創る地域の未来～



長谷真里氏

榎原拓史氏

報告者：長谷ぶどう園／代表 **長谷 真里氏** 榎原工業(株)／代表取締役 **榎原 拓史氏**

はじめに

第2分科会は国際交流委員会・異業種交流委員会・女性委員会・環境経営委員会の4委員会が合同で設営させていただき、長谷ぶどう園の長谷真里氏と榎原工業(株)の榎原拓史氏に報告いただきました。

長谷氏の報告

長谷氏はさぬき市で先祖代々続くぶどう園を経営されています。圧倒的においしい葡萄づくりはもちろんのこと、アイスクリームやビール、甘酒などの加工品を手掛けるなど様々なチャレンジをされています。

そんな長谷氏は16期の経営指針を創る会（以下、創る会）を受講されて、『大切な人を思う気持ちをかたち』という理念を創り上げました。

自分が楽しむことに加え、従業員さんや業務をサポートくださっている就労支援施設の仲間を家族として捉えるようになります。また、葡萄を購入してくれるお客様のさ



らに先のお客様の笑顔まで考えるようになりました。

そうすることによって、地域の課題にも目を向けるようになり、葡萄を通して仲間を増やし、熱意なファンづくりをすること、地域に人が集まってもらうという目標が明確になりました。

榎原氏の報告

榎原工業の榎原氏は上履きシューズの加工を手掛けておられますが、コロナ禍において業務量が不透明になる中、自社ブ

ランドを立ち上げられました。

また、創る会に参加し学ぶ中で、地元の学校との関わりができ、地域に必要なとされる会社について考えるきっかけができました。

地域との関係ができたことで社内の雰囲気が変わり、社員さんがより安心して働ける環境が整ってきました。

最後に

お二人とも創る会に参加し、『何のために経営しているのか？』を再考すること、地域を愛し、地域から愛される企業になるということを大切に考えるようになりました。

最後になりますが、地域の課題を解決することは容易ではありません。だからこそ、大切なことは経営者一人ひとりが何のために経営をしているのか自社の強み弱みを理解し、社内外に想いを発信し続けることが大切だと感じました。地域とは人です。自分

が大切にしたい人のことを思い企業活動を維持、発展することが、地域を守ることなのではないかと考えさせられました。

座長

(株)竹内農場

専務取締役

竹内 一之/記
(中讃第2支部)



設営：東讚支部

覚悟を持った 本気の地域づくり

～新しいビジネスモデルへの挑戦～



報告者：タナカ印刷(株) 代表取締役 田中英城氏

はじめに

今回の第3分科会は、東讚支部設営で「東かがわ市の地域課題を解決する分科会」として、タナカ印刷(株)の田中英城氏にご自身や自社の歩み、同友会入会前から入会後の変化を赤裸々にご報告いただきました。

街の問題を自社事と考える

この分科会では、「覚悟を持った本気の地域づくり、自社事業を通じてどのように地域に関われるか？」ということテーマに議論してきました。

大袈裟かもしれませんが、少子高齢化により人口減少が進み、地域が衰退する中でも仮に事業が成長し続ける企業があったとしても、街の課題が解決できてない場合、その企業は街と共に衰退するのではないのでしょうか？極端に言うなら、街の問題を自社事と考え、自社の理念やビジョンに街の活性化が入っていない会社は街と共に滅びていくのかもしれない。

ファクトリーツーリズム事業

今回の田中氏の報告にあったファクトリーツーリズム事業には、当社も参加させていただく予定です。この事業は、「自社事業を通じてこの地域を良くしていくために何ができるのか？」と議論を重ねる中で出来たものでした。もちろん私も案を出させていただきました。

コロナ前、私はイタリアの田舎町に仕事で数回に行っていたのですが、皮メーカーやバッグメーカー



カーに行くで見学ツアーがあり、そこでは会社の歴史やこだわりを教えてください、販売スペースもあり、観光客が多く押し寄せていました。そんなイタリアの田舎町を訪問しながら、東かがわ市でも、全国から縫製のモノ作りに興味がある観光客が集まり、自社の理念やこだわりを共感してもらえファンを作る事業ができないかと思っております。

ファクトリーツーリズム事業を成功させるためには、タナカ印刷一社で取り組むのではなく、地域の多くの事業者と取り組む必要があります。その一企業として、当社も一緒にこの事業について考えさせていただき、最終的に大きなツーリズム事業になるよう、セトウチメーカーズや東讚支部の仲間、その他の想いを共感した地域の事業者さんと共にフロンティア精神で取り組んで行きたいと思えました。

おわりに

各会員が自分の地域の歴史や課題を深掘りし、自社事業を通じて地域の課題をどの様に解決していくのか？地域の発展と自社事業の永続をどう考えていくのか？この分科会での学びや気づきを自社の実践に繋げていただきたいと思えます。



座長

生新(株)

代表取締役

生島佳典/記
(東讚支部)

設営：三木町連携

スモールビジネスが地域を救う!

～このままでいいのか!!今の経営!!価値観の大転換～



報告者：まさご屋SUSURU 代表 真砂 泰介氏

地域課題を解決するには

第4分科会では、最近

メディアにもよく取り上げられます、まさご屋SUSURU / 代表の真砂泰介氏に『スモールビジネスが地域を救う』このままでいいのか!!今の経営!! 価値観の大転換というテーマで報告していただきました。

同友会の例会で地域のテーマになった時、「あなたは何か地域貢献をしていますか?」の問いに対して「うちは何もしていない」「地域と言われてもよく分からない」といったやりとりがよく見られます。

しかし我々中小企業は、従業員さん、顧客、仕入先と、その多くが地域で成り立っているのではないのでしょうか? 「我々」と「地域」とは切り離せない密接な関係にあります。地域にも、多くの問題が山積しています。そして我々にできることがあります。

真砂氏は地域の課題に対して様々な取組をされています。



- ・ 土地を購入し開墾から「麦縄の里」のモールを建設。若い経営者に出店のチャンスを提供

- ・ 流しそうめんの世界ギネス記録にチャレンジし、子供達に夢や目標を追う事の大切さを背中で見せる

- ・ 小麦プロジェクトという地元小学校で児童に麦の種まきの体験活動を行い、次の学年に代々引き継ぎ小麦や麦を使つての商品開発を考える取り組み

- ・ 日いづるSETOUCHIという老若男女問わず地域の事を考える学び場の運営
- ・ 大量生産ではなく昔ながらの素麺作りの製法で文化の伝承を担うなど

このように、真砂氏は特に若者や未来を見据えた

活動をされていることがわかります。

では、我々が明日から同じようなことができないかと言え、簡単に誰もができることではないと思います。しかし皆が出来ることもあります。その一つが「買い物」です。地域で根ざしている商店、会社を知りそこで買い物をすることは立派な地域貢献だと思えます。

地域課題を解決するには地域に根ざしたスモールビジネス、つまりは我々のような「中小企業」が多く必要です。そのスモールビジネスを支えることができるのは地域で生活している私たち消費者です。地域課題の解決には20年30年といった長い時間が必要です。

そのためには私たち一人ひとりの意識を変え、そして行動を始めることが必要不可欠です。一つの商品・サービスの想い、背景を知り共感し買い物をするのは、ただの買い物ではなく、意思のある買い物、「未来への投資」です。

私は「今の仕事を通してどんな地域貢献ができていけるのだろうか」と考えていたのですが、真砂氏は「地域課題を解決するために自分たちの仕事をどう変化できるだろうか」という考えで動いているという違いを見つけました。

この考え方は、これからの会社運営と地域課題の解決をリンクさせる重要な考え方だと思えます。20年30年後の地域、日本、世界が今よりも少しでもよくなるように少しずつ長く行動していきたいです。



座長
グッドワーク(株)
代表取締役
平井陽介 / 記
(高松第7支部)

第33回香川経営研究集会 実行委員長のまとめ

第33回香川経営研究集会実行委員長

松田哲也税理士事務所／所長 松田 哲也氏
(副代表理事・高松第5支部)

まとめに先立ちまして、会員の皆さんはもとより、東かがわ市長、さぬき市、三木町長をはじめ行政、学校、金融機関、そして他団体から数多くの方々にご参加いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

こうして皆さま方と一緒に「それぞれの立場における地域課題」と「これからの地域づくり」について学びを深めさせていただき、私たちは三つの成果を確認しました。

第一に私たちが目指すところの「小さな一流企業」こそが、光り輝く地域づくりの主体者になることを改めて確認しました。第二に行政というプラットフォームの中での産学金それぞれの役割や、魅力が確認できました。第三に本日の学びをとおして産公学金の横の連携ができたことは今までにない大きな実りとなりました。

この三つの成果を実り豊かな種としさらに継続、発展してまいりたいと思います。

1. 基調講演

基調講演では、上村市長自身の理念から生まれてきた東かがわ市の行政や市民の皆さんの前向きな変化を事例としてお話しいただきました。ご参加いただいた皆さんのすべてが満足のいく大きな学びがあったのではないかと私は確信しております。

私は特に、市長の理念である「対等な関係による一体感のある地域づくり」こそが同友会で学ぶ「労使見解」や同友会理念の「自主・民主・連帯の精神」であり、本経営研究集会の開催意義・目的である「産公学金が一体となって地域の課題を解決する」ことを後押ししていただけるものではないかと心動かせ胸を熱くしながらお話を拝聴しておりました。

2. 分科会

分科会では、それぞれの会員が行政、学校、金融機関、商工会や他団体の方々との意見を交わし、学びをさらに深めました。

準備期間中、参加される方からほかの分科会にも参加したいという多くの声が挙がったように、どの分科会も「責任と覚悟をもって地域課題を解決する」大変魅力ある学びの多い内容でした。

特に、第4分科会では三木町連携という新しいスタイルで、三木町の企業と同友会が連携し、

行政や金融機関、商工会の皆さんと学びを深めたことは新たな第一歩ではないかと思えます。

3. 総務・渉外・魅力発信部会

経営研究集会では、基調講演部会、分科会部会だけでなく総務部会、渉外部会、魅力発信部会の皆さんの影の力があってこそ成り立つものでした。とくにコロナ禍における開催の判断や産公学金一体となった集会とするために各部会の皆さんには本当にご苦勞をおかけしました。

4. 動員なき経営研究集会

さて皆さん、今回の取り組みのひとつとして「動員なき経営研究集会」を掲げてまいりました。「動員なき経営研究集会」とは、行き過ぎた動員ではなく自分たちがやるべき本質部分を追求し、それを魅力として会内外に発信しその魅力を感じてもらう運動です。

初めての取り組みに当初は不安を抱えながら進めてまいりましたが、今回334名の方々に、この経営研究会の魅力を感じてご参加いただいたことは大きな成果です。

5. 最後に

地域課題の解決は一朝一夕では解決できません。地域づくりは二十年先あるいは三十年先を見据え産公学金が一体となって取り組む必要があります。

皆さん一人ひとりの経営研究集会での学びを実践し、来年、再来年の経営研究集会に繋げましょう。そしてこの学びと実践を2027年に香川で開催される「全国定時総会」へとつなぎ、「全国に先駆けた誰もが幸せになる地域」を皆さんやこれからの新しい仲間とともに築き、その学びと実践の成果を全国に発信できるよう目指していきたいと思えます。

以上、第33回香川経営研究集会のまとめとさせていただきます。

